

作物名	病害虫名	発生予報	備考
夏秋なす	うどんこ病	発生量: 平年並	
	すすかび病	発生量: 平年並	
	灰色かび病	発生量: 平年並	
	アザミウマ類	発生量: やや多	
	アブラムシ類	発生量: やや多	
	コナジラミ類	発生量: やや多	
	ハダニ類	発生量: やや多	
	ハモグリバエ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
秋冬ねぎ	さび病	発生量: やや少	
	べと病	発生量: 平年並	
	黒斑病・葉枯病	発生量: 平年並	
	ネギアザミウマ	発生量: 多	
	ネギハモグリバエ	発生量: やや多	
	ネギコガ	発生量: やや多	

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第10号の発行日は10月23日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ

トップページ

登録フォーム

－10 月中旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:9月7～11 日

天候予報:仙台管区气象台9月 14 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 25～28℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
すすかび病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 23～28℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
灰色かび病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発病果率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 15～25℃の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ ±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生葉率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、一部で寄生株率が高いほ場も認められたが、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハモグリバエ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、被害株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+) : 遅くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (−) : 早くなる要因 (空欄) : 該当せず
発生量…(+) : 多くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (−) : 少なくなる要因 (空欄) : 該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- 施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- 植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に整枝剪定を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- 天敵製剤や訪花昆虫を使用しているほ場では、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。
- 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) うどんこ病

- 多発時は散布間隔を短くし、4～5日間隔でFRACコードが異なる薬剤をローテーション散布する。

(3) すすかび病・灰色かび病

- 発病した果実や茎葉は見つけ次第摘除し、施設外へ搬出し適切に処分する。

・施設内の湿度が高くなると発生しやすいので、十分に換気する。

(4)アザミウマ類

・近年薬剤感受性の低下が全国的に問題となっているため、発生しているアザミウマの種類に効果があるIRACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

(5)アブラムシ類、ハモグリバエ類

・ほ場をよく見回り、適切に防除を行う。

(6)コナジラミ類

・多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。

・主に葉裏にいたので、薬剤は葉の裏にもよくかかるように散布する。

・タバココナジラミの一部は、ネオニコチノイド系薬剤の一部、合成ピレスロイド系薬剤、ピリプロキシフェン剤等に対する薬剤感受性が低い事例が他県で報告されていることから、必要に応じて気門封鎖剤や天敵製剤による防除も検討する。



図1 オンシツコナジラミ (左)とタバココナジラミ (右)

オンシツコナジラミは翅を背中でたたんで静止し、タバココナジラミはわずかに翅を開いて静止する。タバココナジラミの体色は黄色味が強い。

(7)ハダニ類

・薬剤感受性が低下しやすいので、薬剤の効果を確認し、気門封鎖剤も含めてIRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

・多発すると1回の薬剤散布のみでは散布ムラ等で十分な効果が得られない場合があるので、薬剤散布の3～5日後にハダニ類が寄生していた場所を観察し、虫の有無や薬剤の効果を確認する。効果が見られなかった場合はIRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

— 10 月中旬までの発生予報と防除のポイント —

巡回調査: 9月7～12 日

天候予報: 仙台管区气象台9月 14 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
さび病	—	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -)
- (2) 15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病度は平年並であった。(/ ±)
- (2) 15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低かったが、発病度は平年より高かった。(/ ±)
- (2) 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	—	多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び被害度は平年より高かった。(/ +)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び被害度は平年よりやや高かった。(/ +)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギコガ	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、被害株率は平年並であったが、発生地点率は平年より高かった。(/+)
(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・本年は害虫(ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ、ネギコガ)が平年より広域でかつ多く発生している。ほ場をよく観察し、適切に防除を実施する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) さび病、べと病、黒斑病、葉枯病

- ・草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を実施する。
- ・葉枯病の黄色斑紋病斑は、平均気温が 15～20℃、曇雨天で発生しやすい。また、肥料切れにより草勢が衰えることでも発生が助長されるため、適期収穫を行うとともに、収穫前に薬剤防除を実施する際は、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。

(3) ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ

- ・ほ場内及びほ場周辺の雑草は、これら害虫の発生源となるので除草に努める。
- ・ネギアザミウマはウイルス病を媒介することがあるので、ほ場を観察し適切に防除を行う。
- ・近年、従来のネギハモグリバエと異なり、著しい食害痕を呈するバイオタイプBの発生が広域で確認されているため、防除を徹底する。

(4) ネギコガ

- ・被害が見られた場合は、浸透移行性の高い薬剤を用いて速やかに防除を行う。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム